

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問看護師にとっての対応困難事例の困難の要素について ～テキストマイニングソフトを用いた個別面接調査の分析結果より～
演者名	武ユカリ, 金川治美
所属	神戸常盤大学短期大学部

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究	NO.
	4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	5

目的 訪問看護師への個別面接調査から対応困難事例について困難要素を検討する。

方法 対応困難な事例について, 訪問看護師 12 名を対象に個別面接調査を行い, 録音データからテキストデータを作成し, テキストマイニングソフト(Text Mining Studio5.0:NTT データ数理システム)により分析した. 辞書の整備をして分かち書きを行い, 頻度解析, 注目解析, 評判分析, 原文参照を実施した. 尚, 本研究は平成 24 年 8 月神戸常盤大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得た.

結果 単語種別数 4158 語, 品詞別出現数は名詞・動詞・副詞・感動詞の順であった. 評判分析でポジティブ (以下 P) , ネガティブ (以下 N) な単語は共に「人」「状態」「対応」の順に多かった. 其々の原文から評判語を検索し内容を検討した. N の内容は「人」では厳しさ, 「状態」では身体状況や療養環境の悪さ, 「対応」では対応の難しさへの戸惑い, 対応に対する負の反応があった. 述語属性フィルタで N の述語属性の単語を選択し単語頻度集計を行い, 原文の内容について検討した. 頻出数 20 回以上は「分かる＋ない」「出来る＋ない」「言う＋ない」「する＋ない」の 4 つだった. 「分かる＋ない」は対象者の言動の意味がわからない, 理解が得られない等, 「出来る＋ない」ではケアの受け入れ・障害の受容等ができない等, 「言う＋ない」は家庭内暴力の存在を言わない, 自分の非を言われたくない等, 「する＋ない」はセクハラの報告をしていない, 仕事の範囲ではない等があった.

考察 訪問看護師が困難と認識する要素として, 対象者の障害の受容, 家族関係の不和, 暴力の介在, 訪問サービスに対する理解不足, 対象者の健康状態等, 多様な要素があった. 今回, 訪問看護師の困難事例についての認識の一部を可視化できた. 困難事例の具体的な対応策を検討するための要素として用いることができる. 今後, この分析結果をもとに要素を分類化して, 対象を拡大し調査を行う必要がある.